

要請文

令和2年12月28日

新宿区・区長 吉住健一様

武漢肺炎が猛威を振るう中、『感染の震源地』という汚名を着せられた新宿区ですが、その一方で、今後どの様に未知のウイルスから区民、国民を守って行くか全国から注目が集まっております。

吉住新宿区長ならびに区役所職員、医療関係の皆さんらの感染拡大阻止と収束に向けての日々の奮闘が実を結び、未曾有の困難に打ち勝ち、汚名も挽回することと信じております。

さて、新宿区の友好都市である、ドイツベルリン市ミッテ区に、所謂従軍慰安婦を象徴する像が令和2年9月25日に設置され、一旦は、ステファン・フォンダッセル同区長から『国家間の歴史論争で一方の肩を持つ事態を避けたい』との理由から撤去命令が出たものの、12月1日ミッテ区議会において永久的な像の設置を求める「平和の少女像存置案」の決議案がミッテ区議29人中、賛成24名、反対5名で可決されてしまいました。

この決議案は、ミッテ区の友好都市である新宿区民として、また一人の日本国民として、到底受け入れられるものではありません。

像の設置団体、コリア協議会のハン・ジョンファ代表は、『韓日の外交問題や反日民族主義ではなく、戦時性暴力や表現の自由、普遍的人権』の像などと、韓国ハンギョレ新聞のインタビューに答えていますが、像と共に設置されている石碑には、『第二次世界大戦中、日本軍は数えきれない数の少女、女性をアジア太平洋地域から拉致し、強制的に性奴隷にしました』と明らかに一方的な主張を盛り込んだ碑文が刻まれています。

当時の社会状況を見無視し、実態とはかけ離れた詭弁を弄し設置させたこの像は、戦時下の暴力や普遍的な人権を祈る像などでは決してなく、歴史ねつ造によって我が国の名誉と日本人を不当に陥れる『反日ヘイト像』であることは明白です。